



静岡の進路と課題(二)

徳川宗家十八代当主・静岡商工会議所最高顧問 徳川恒孝



2012年4月14日に開通した新東名高速道路(静岡SA付近)

今回はドイツでの御話をします。

昨年末、日独修好通商条約百五十年を記念する展覧会がドイツ中部の都市で開かれ、条約の交渉時にプロイセン皇帝から一四代将軍家茂公に献上された品を出品したことから、ご招待を受けて出席しました。大統領も出席された盛大な式典で御役目を果たしたあと、一日をドイツの歴史学者達とハイデルベルヒで過ごし、色々なこと、特に原発へのドイツ人の考え方を聞きました。その答えは「原発から自然エネルギーへの転換は国家安全保障の為である」と言うものでした。

「ドイツには石炭も石油もLN Gもウランも無い。三〇年後、世界人口が九〇億人に達し地球の資源が枯渇した時、資源の無い国は窮地に立つ。それを回避する

ためには自然エネルギーに移行していなければならない。人間は未だ原子力を完全にコントロールする力は無く、極めて危険な使用済核燃料を処理する方法も無い。このままの状況を次世代に残すことは世代間の犯罪である。従って耐用年数に達した原発は順次廃炉として約三〇年で全廃し、その間自然エネルギー促進に全力を挙げると云うものでした。

如何にもゲルマン民族らしい堂々の結論ですが、一方日本は今年の夏の電力不足のことしか頭にないようにも見えたりしますから、幾らなんでもこれは余りに近視眼過ぎると感じています。

静岡市は地政学的に見て極めて重要な位置にあります。今川家が繁栄したのも、家康公が

最後に御自分の居城として、平和の継続する時代造りの基本設計をこの地で仕上げられたのも、単に懐かしい幼年・壮年時代へのノスタルジアなどでは無く、この静岡の地政学的価値を十分に理解されていたからだと思います。新幹線と第一、第二の東名高速に何か起これば、日本は「重症」では済まされません。静岡が明るく豊かに繁栄を続けることは、それ程重要な事だと思っています。

では、どうすれば良いの?と云うことになりました。私は矢張り「民・官学」が一体となって真剣に考えることから始める以外にないと思います。そのリーダーシップをとるのは、矢張り「民」の力であると思います。

次号は各地で見て来た「民」の力について書いて見たいと思います。